

---

# たとえてみると

中田 勘

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

たとえてみると

### 【NZコード】

NZ8853M

### 【作者名】

中田 勘

### 【あらすじ】

とある人の人生を一日にたとえると。

暗闇で寝ていると、突然光が差し込んできた。

太陽が輝き、雲の無い空の下明るい道を歩いていた。両横には田がありその真ん中には直線にアスファルトでできたの道があった。そのさきには街がある。

騒音が響き、雰囲気の軽い町だった。少し話すとすぐ仲良くなれた。皆が帰宅するというので、別れを告げてまた歩き始めた。

視界の中に、森があつた。

しんとした雰囲気で、木々の間から光が差し込んでいたがやがてそれも消えて暗くなつた。

田の前には洞窟があつた。

寒いので身震いをし、改めて前後左右を確認する。分かつていたがやはり真っ暗だった。なぜか暗順忯がおこる様子が無い。不自然を感じつつも歩いていた。

ふと田に一線の光が差し込んだ。

外に出ると、光が数秒差し込んだだけでまた消えた。ただ、さつきと違うのは外なのに真っ暗闇ということだ。立ち止まつっていた。

田の前にはなにか悪いものがあることに気づいた。

ただただ光だつた。しかし光によつて田が痛む様子が無い、むしろ快樂を得ていてる気がする。

しだいに光が闇へと変わつた。苦しかつた。初めて味わつた感覚だ。そして意識が途切れだ。

これが、僕の人生。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8853m/>

---

たとえてみると

2010年10月21日20時12分発行